

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	常葉大学短期大学部
設置者名	学校法人常葉大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
本科	日本語 日本文学科	夜・通信	4		10	14	7		
	保育科	夜・通信	4		10	14	7		
	音楽科	夜・通信	4		6	10	7		
認定専攻科	専攻科音楽専攻	夜・通信			8	8	7		
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.tokoha-u.ac.jp/campuslife/support/syllabus/>

本学ホームページ上記URLに「実務経験のある教員が担当する授業一覧」を公開している。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	常葉大学短期大学部
設置者名	学校法人常葉大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法：ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha.ac.jp/disclosure/officers>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元株式会社取締役	2025年5月定時評議員会終結の時～2027年6月定時評議員会終結の時	法人運営全般
非常勤	元静岡市教育長	2025年5月定時評議員会終結の時～2027年6月定時評議員会終結の時	法人運営全般
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	常葉大学短期大学部
設置者名	学校法人常葉大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

12月中旬より授業科目担当者に対して、授業計画(シラバス)の作成を依頼し、1月上旬までに提出させるとともに、提出の際にシラバスの自己点検の結果を併せて提出させている。

その後、各学科から選出されたシラバスチェック担当者によるシラバスチェックを行い、3月中旬までの間、必要に応じてシラバスの修正を依頼する。

3月下旬から本学ホームページ上にてシラバスを公表している。

授業計画書の公表方法	公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/campuslife/support/syllabus/
------------	--

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各授業担当者は、シラバスの中に成績評価の方法・基準について、試験、レポート、受講態度など担当する授業の特性にあった適切な方法を記載している。

成績評価について、教員は成績評価規程の基準を踏まえ、学習成果を厳格かつ適正に評価して単位を与えるとともに、学生に対しては、成績評価に対する異議申し立ての機会を与えていている。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学生の成績評価方法の一種で本学では学習意欲の向上、学習指導への活用等を目的にG P Aを導入している。

G P Aの計算方法については、学生便覧に記載するとともに、学生便覧をホームページにおいて公表している。

〈G P Aの計算方法〉

「秀」=4 ポイント、「優」=3 ポイント、「良」=2 ポイント、「可」=1 ポイント、「不可」=0 ポイント

$$\frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1}{\text{履修登録単位数}}$$

客観的な指標の 算出方法の公表方法	公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/regulations/ (各学生便覧に記載<例>2025年度 常葉大学 短期大学部)
----------------------	--

<p style="text-align: right;">(学生便覧 P. 46)</p> <p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学科・専攻科とも卒業認定に関する方針に基づき、学生の修得単位数、在学期間等を踏まえ、卒業や修了を認定している。</p>
<p><日本語日本文学科></p> <p>所定の単位を修得し、ライフデザイン力として、主体的に学び続ける姿勢を身に付けることをめざします。また、次の内容を満たすことも求めます。</p> <p>① 科の教育理念「自主独行」に従い、自らの目的に応じた科目選択・単位修得ができていること。</p> <p>② 日本語や日本文学、日本文化の基礎がどれほど身につけられたかは卒業研究で判断される。この研究を作成する過程で、情報を収集する力、情報を考察する力、論理を構成する力、文章をまとめ、発表する力を身に附していること。</p> <p>③ 授業や行事を通じて、判断する力、協働する力、企画する力などを育成していること。</p>
<p><保育科></p> <p>保育者としての実践力を修得し、子ども観・保育観を身につけ、子どもと一緒に生活を考え続けることができ、社会の一員として協働し、貢献できる知性と教養を修得できた者に学位を授与します。</p> <p>① 保育者としての関心、意欲、熱意を身に附している。</p> <p>② 保育及び家庭支援に関する専門的知識と実践力を身に附している。</p> <p>③ 保育にふさわしい環境を理解し、子どもと一緒に生活を作り上げる実践力を身に附している。</p> <p>④ 知性と教養を修得し、社会の一員として、また保育者として貢献できる力を身に附している。</p>
<p><音楽科></p> <p>音楽に親しむ者としての知識・能力を身につけ、それらを活用して自らの表現を探求するとともに、その過程で生じる様々な課題を解決できる力を身につけた者に卒業を認め、学位を授与します。</p> <p>具体的な目標として、次のような学修成果を求めます。</p> <p>① 音楽の基本的な知識を理解・身に附している。</p> <p>② 演奏・創作技術を身に附している。</p> <p>③ 様々な知識を総合的に活用して、自らの表現を探求できる。</p> <p>④ 自身の課題を的確に把握して研究方法などを考え、或いは助言を求めるなど、問題を解決するために適切に判断できる。</p>
<p><専攻科音楽専攻></p> <p>音楽家としての作曲と演奏技術や専門知識を習得し、発表の準備を自らの力で進めるための主体的に学び考える力、そのマネージメント力、さらに共演者や社会と係わるコミュニケーション力を培うことができた者に、修了を認めます。</p> <p>① 自らの創意工夫による豊かな表現のため、確かな作曲と演奏技術を身につける。</p> <p>② 自らの創意工夫による豊かな表現が裏打ちされたものとなるよう、確かな知識を身につける。</p> <p>③ 作曲と演奏に必要な作品研究や作曲と練習活動を、自ら考え実行できる判断力、</p>

自律性を身につける。

- ④ 自らの考えを他人に的確に伝え、また、他人の考えを聞いて意見交換できるコミュニケーション能力を身につける。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/
----------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	常葉大学短期大学部
設置者名	学校法人常葉大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
財産目録	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
事業報告書	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
監事による監査報告（書）	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：令和7年度事業計画書）	対象年度：令和7年度
公表方法：ホームページにおいて公表	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure
中長期計画（名称：学校法人常葉大学 第2期中期計画）	対象年度：令和3年度～令和7年度
公表方法：ホームページにおいて公表	https://www.tokoha.ac.jp/disclosure

3. 教育活動に係る情報

（1）自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/self-check/ https://www.tokoha-u.ac.jp/university/ce_university/college-accreditation/

（2）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/ce_university/
--

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　日本語日本文学科
教育研究上の目的 公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/
(概要) 日本語日本文学科は、自ら学び行動する「自主独行」の精神を身につけるとともに、日本語・日本文学を通じて得た豊かな素養及び知識を持って、自己表現、自己発見、探求する能力及び精神を養成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/
(概要) 所定の単位を修得し、ライフデザイン力として、主体的に学び続ける姿勢を身に付けることをめざします。また、次の内容を満たすことも求めます。 1　科の教育理念「自主独行」に従い、自らの目的に応じた科目選択・単位修得ができていること。 2　日本語や日本文学、日本文化の基礎がどれほど身につけられたかは卒業研究で判断される。この研究を作成する過程で、情報を収集する力、情報を考察する力、論理を構成する力、文章をまとめ、発表する力を身に附していること。 3　授業や行事を通じて、判断する力、協働する力、企画する力などを育成していること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/
(概要) 「ライフデザイン」をしっかりと見据え、自主独行の理念を実現できるように次のようにカリキュラムの編成を心がけています。 1　授業科目は基本的に選択科目で構成し、それぞれの科目内容を見極め、選択する際に関連をつかみ、実効化するように助言する。結果として履修科目の選び方に整合性が生まれるように工夫する。 2　日本語と日本文学を軸に学び、日本文化への理解を深め、それらを研究することを第一の目的としてカリキュラムを編成する。学修成果を具現化するために卒業研究を必修とし、論理力・構成力・実証力などの能力を具体的に成果としてまとめあげる。 3　資格科目をより強固にするための図書出版関係の授業や、社会人としてコミュニケーション力やプレゼンテーション力を高めるための科目を設定し、文化領域だけでなく、実務関連領域も充実させる。
入学者の受入れに関する方針 公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/
(概要) 本学の3つの教育理念と本学科の教育理念である「自主独行」の精神を踏まえ、次のような人材を求める。 ●　日本の文化や言葉を主体的に学習し、深く理解しようとする意欲を持っている者

- 未来を見据え、言葉が単なる道具でなく、生き方そのものであると考える者
- 他者との対話を重んじ、地域社会に貢献する意欲を持っている者

<p>学部等名 保育科</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/</p>
<p>(概要)</p> <p>保育科は、人間形成の基礎となる乳幼児期からの保育・教育に携わる豊かな人間性及び専門性を併せ持つ人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/</p>
<p>保育者としての実践力を修得し、子ども観・保育観を身につけ、子どもと一緒に生活を考え続けることができ、社会の一員として協働し、貢献できる知性と教養を修得できた者に学位を授与します。</p> <p>1 保育者としての関心、意欲、熱意を身に附けています。 2 保育及び家庭支援に関する専門的知識と実践力を身に附けています。 3 保育にふさわしい環境を理解し、子どもと一緒に生活を作り上げる実践力を身に附けています。 4 知性と教養を修得し、社会の一員として、また保育者として貢献する意欲を身に附けています。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/</p>
<p>(概要)</p> <p>保育者としての実践力を修得し、子ども観・保育観を身につけ、子どもと一緒に生活を考え続けることができ、社会で積極的に協働できる者を養成するため、理論と実践をバランスよく学び、幼稚園教諭二種免許及び保育士資格の取得を可能にするカリキュラムを編成しています。</p> <p>1 保育の目的とその意義について学ぶ科目 2 保育の基礎理論として子ども理解を深める科目 3 保育を実践するための方法及び技能を習得する科目 4 家庭と子どもを取り巻く現代社会の状況について学ぶ科目 5 子どもの表現を理解し、育む援助を習得する科目 6 現場で実践的に保育を学ぶ科目</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/</p>
<p>(概要)</p> <p>本学の3つの教育理念を踏まえ、次のような人材を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 保育者になる熱意があり、子どもから学ぼうとする意欲がある者 ● 子どもの思いに応え、子どものために挑戦する意欲がある者 ● 子どもを取り巻く社会的な事柄に关心を持ち、保育で地域社会に貢献する意欲がある者

<p>学部等名 音楽科</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/</p>
<p>(概要)</p> <p>音楽科は、音楽の専門教育、幅広い教養教育及び総合的な人間教育を通して感性を養い、実社会でも役立つ人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/</p>
<p>音楽に親しむ者としての知識・能力を身につけ、それらを活用して自らの表現を探求するとともに、その過程で生じる様々な課題を解決できる力を身につけた者に卒業を認め、学位を授与します。</p> <p>具体的な目標として、次のような学修成果を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽の基本的な知識を理解・身につけている。 2 演奏・創作技術を身につけている。 3 様々な知識を総合的に活用して、自らの表現を探求できる。 4 自身の課題を的確に把握して研究方法などを考え、或いは助言を求めるなど、問題を解決するために適切に判断できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業認定・学位授与の方針を達成し、また、自らを律して行動する力、協調協働する力、問題を解決する力を養うため、次のような方針に基づいて教育課程を編成します。その際、科目によっては能力や特性によってクラスを分割し、各学生の特性にあった支援を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽の基本的な知識を学ぶ科目 2 音楽に必要な基本的能力の向上をめざす科目 3 演奏解釈・表現技法・練習方法・作品分析を各学生の特性にあわせて共に考え、演奏・創作技術の向上を図る実技科目 4 演奏形態の1つとして、また、協働する力を養うアンサンブル科目 5 指導するために必要な知識・技能を習得する科目 6 一般社会での活動で求められる能力を養う科目 7 西洋を発祥の地とする音楽を専門に学習することから必要となる、外国語の科目 8 幅広い知識と豊かな人格形成を目指す科目 <p>更に、課外教育活動として公開レッスンや様々な演奏会等、学生が実体験する機会を設けます</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>公表方法：ホームページにおいて公表</p> <p>https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/</p>
<p>(概要)</p> <p>音楽科では、音楽の基本的知識や能力を得ると同時に、演奏・創作技術を向上させ、自己表現を追求していきます。そのためには、自己管理力や協調性、問題を発見し解決する方法を考える力が必要です。</p> <p>このような観点から、音楽科では次のような受験生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 部活動や音楽教室、個人教授等を通して、音楽を演奏・創作する技能を身につけている

人
2 自己管理力や協調性、問題解決力を、様々な音楽活動を通して身につけていく意欲のある人
3 音楽を主な活動分野、あるいは趣味として、生涯にわたり愛好する心情と感性を兼ね備えた人
さらに、入学前に音楽理論（楽典）を一通り学んでおくことを期待します。

学部等名 専攻科音楽専攻
教育研究上の目的
公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/01/
(概要) 専攻科音楽専攻は、作曲と演奏技術を修得して音楽的活動に携わる人材を育成すると共に、音楽活動を通して培った経験・自律性を実社会でも役立てられる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針
公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/
音楽家としての作曲と演奏技術や専門知識を習得し、発表の準備を自らの力で進めるための主体的に学び考える力、そのマネージメント力、さらに共演者や社会と係わるコミュニケーション力を培うことができた者に、修了を認めます。
1 自らの創意工夫による豊かな表現のため、確かな作曲と演奏技術を身につける。 2 自らの創意工夫による豊かな表現が裏打ちされたものとなるよう、確かな知識を身につける。 3 作曲と演奏に必要な作品研究や作曲と練習活動を、自ら考え実行できる判断力、自律性を身につける。 4 自らの考えを他人に的確に伝え、また、他人の考えを聞いて意見交換できるコミュニケーション能力を身につける。
教育課程の編成及び実施に関する方針
公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/
専攻科音楽専攻では、個別の徹底した実技指導や多くの作曲と演奏経験を通してより高度な技術とより豊かな表現力を獲得するとともに、様々な作品や演奏解釈を知り、広範な知識と併せ自らの表現が創造できる力を養います。
1 作曲と表現技法や作品・演奏解釈、練習方法を学ぶ実技科目 2 様々な作品や演奏解釈を知り、その意図や目的を考える科目 3 音楽的基礎知識や技能をさらに深化させる科目 4 西洋音楽を学ぶ上で必要な外国語科目
入学者の受入れに関する方針
公表方法：ホームページにおいて公表 https://www.tokoha-u.ac.jp/university/policies_of_university_activities/202304/
(概要) 専攻科音楽専攻では、高度な技術修得により豊かな表現力の獲得をめざすと共に、作品を知り解釈する力を養います。また、音楽家としてどうしたら問題が解決できるのか、自分が今何をすべきか、己を律し、自ら考え判断することが求められます。 このような観点から、専攻科音楽専攻では次のような受験生を求めています。
1 音楽的基礎知識を持つ人

- 2 作曲または演奏技術を持つ人
3 音楽を学ぶ意欲と向上心を持つ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/02/>

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/03/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関するこ

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
—	1人	—	—	—	—	—	1人
日本語日本文学科	—	1人	3人	1人	1人	0人	6人
保育科	—	4人	5人	3人	1人	0人	13人
音楽科	—	3人	1人	1人	0人	0人	5人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	45 人	45 人

各教員の有する学位及び業績
(教員データベース等) 公表方法: ホームページにおいて公表
<https://www.tokoha-u.ac.jp/teacher>

c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
日本語日本文学科	65 人	44 人	67.7%	130 人	96 人	73.8%	-人	0 人
保育科	150 人	80 人	53.3%	300 人	164 人	54.7%	-人	0 人
音楽科	25 人	12 人	48.0%	50 人	33 人	66.0%	-人	0 人
合計	225 人	136 人	60.4%	480 人	293 人	61.0%	-人	0 人
専攻科音楽専攻	10 人	7 人	70.0%	20 人	18 人	90.0%	-人	0 人

（備考）

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
日本語日本文学科	37人 (100%)	0人 (0%)	29人 (78.4%)	8人 (21.6%)
保育科	134人 (100%)	3人 (2.2%)	131人 (97.8%)	0人 (0.0%)
音楽科	23人 (100%)	11人 (47.8%)	7人 (30.4%)	5人 (21.7%)
合計	194人 (100%)	14人 (7.2%)	167人 (86.1%)	13人 (6.7%)
専攻科音楽専攻	10人 (100%)	1人 (10.0%)	6人 (60.0%)	3人 (30.0%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

【進学先】

大阪音楽大学、大阪芸術大学通信教育学科、昭和音楽大学大学院、東海学園大学、常葉大学教育学部、常葉大学保育学部、常葉大学短期大学部専攻科音楽専攻、常葉大学短期大学部保育科

【就職先】

天方産業(株)、(株)オートベル、(株)キャン、(株)杏林堂薬局、(株)クリエイトエス・ディー、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、(株)スズキ自販静岡、(株)タカラ・エムシー、(株)中央コンタクト、(株)ティーガイア、ネットヨタ静岡(株)、(株)BANKAN わものや、藤桂京伊(株)、丸尾興商(株)、(株)メガネトップ、(株)キヨウデンプレッション、三恵(株)、東洋冷蔵フード&ロジスティクス(株)、山崎工業(株)、(株)ブルーオーシャンシステム、(一財)静岡県交通安全協会、(株)NIC 静岡コンタクトセンター、(株)ベアーズ、静清信用金庫、熱海市、御殿場市、浜松市消防局、藤枝市、牧之原市、富士伊豆農業協同組合、(株)呉竹荘、(株)七葉、(株)ホテル銀水荘、(株)まる久旅館、日本郵便(株)、県内幼稚園・こども園、県外幼稚園、(株)榛南自動車学校、Tiny Studio music school、県内保育園、県外保育園、(福)恩賜財団済生会静岡済生会、(株)アクタガワ、(株)ティーアンドティーグループ

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関するこ

(概要)

年間の授業の計画については、5月より前年度の振り返りと次年度の計画の作成に着手し、11月頃に概ね決定する。

12月中旬から授業科目担当者に対して、授業計画（シラバス）の作成を依頼し、1月上旬までに提出させるとともに、提出の際にシラバスの自己点検の結果を併せて提出させている。

その後、各学科から選出されたシラバスチェック担当者によるシラバスチェックを行い、3月中旬までの間、必要に応じてシラバスの修正を依頼する。
3月下旬から本学ホームページ上においてシラバスを公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関するこ

(概要)

学習成果に係る評価は、シラバスの中に成績評価の方法・基準に基づき、試験、レポート、受講態度など授業の特性にあった適切な方法により、成績評価規程の基準を踏まえ、厳格かつ適正に評価して単位を与えている。

また、卒業や修了の認定にあたっては、学位授与に関する方針に基づき、学生の修得単位数、在学期間等を踏まえ認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	G P A制度の採用(任意記載事項)	履修単位の登録上限(任意記載事項)
本科	日本語日本文学科	6 4 単位	有・無	4 8 単位
	保育科	6 4 単位	有・無	4 8 単位
	音楽科	6 4 単位	有・無	4 8 単位
専攻科	音楽専攻	5 0 単位	有・無	— 単位
G P Aの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報(任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関するこ

公表方法:ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/campuslife/map/>

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/07/>

<https://www.tokoha-u.ac.jp/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関するこ

■令和7年度入学者

学部名	学科名	授業料(年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
本科	日本語日本文学科	780,000 円	260,000 円	480,000 円	その他:施設設備整備費、休学中の在籍料
	保育科	850,000 円	260,000 円	590,000 円	その他:施設設備整備費、課程費、休学中の在籍料
	音楽科	1,070,000 円	260,000 円	630,000 円	その他:施設設備整備費、休学中の在籍料
認定専攻科	専攻科音楽専攻	1,070,000 円	260,000 円	630,000 円	その他:施設設備整備費、休学中の在籍料

■令和6年度入学者

学部名	学科名	授業料(年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
本科	日本語日本文学科	720,000 円	—	460,000 円	その他:施設設備整備費、休学中の在籍料
	保育科	790,000 円	—	540,000 円	その他:施設設備整備費、課程費、休学中の在籍料

本科	音楽科	990,000 円	-	600,000 円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料
認定専攻科	専攻科 音楽専攻	990,000 円	-	600,000 円	その他：施設設備整備費、休学中の在籍料

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生支援センター

学生に対する様々な支援の総合窓口として、学生支援センターを設置している。学修、進路、対人関係など、学生一人ひとりの課題や問題と向き合いながら、実りある学生生活を送れるよう、学内外の専門機関と連絡や調整を行い、サポートを行っている。その他、学生の多様な学びに対応するための様々な修学支援を行っている。

クラス担任制度

学生の修学や学生生活の充実を図るため、クラス担任制度を導入している。学業上や一身上の諸問題など、修学中に起こる様々な問題について相談し、適切な指導・助言を得ることができる。

オフィスアワー制度

学生と教員との緊密なコミュニケーションを図るためオフィスアワー制度を導入している。教員のオフィスアワー時間に研究室を訪問し、授業時間中では充分に理解できなかったことや、専門分野の詳細な説明を聞くことができる。また、学生生活やその他諸問題について語り合うなど、所属学部以外の教員に対してもこの制度を利用することができる。

基礎教育センター

基礎教育センターは、多様な学習歴・学力・資質を持って入学してくる学生に対して、一定水準の基礎教養並びに専門分野を学ぶための基礎学力の定着を図るため、入学前準備教育から入学後の学修やスキルアップの支援まで継続的に指導を行っている。個別の学習相談の他、学生同士で学び合うピアサポートなど多様な学びの機会を提供している。

外国語学習支援センター

外国語学習支援センターは、国際交流活動と外国語（英語・韓国語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・フランス語・ドイツ語）の学習を専任教員、学生 LA（ラーニング・アシスタント）、専門スタッフが支援している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

変化する社会に対応するために、進路・就職支援、資格取得支援等、様々な支援体制を整備している。

キャリアサポートセンター

キャリアサポートセンターは、学生の就職に関する希望の実現を目指して、就職活動をサポートする組織である。センターでは専門スタッフが常駐し、就職に関するさまざまな質問や相談を受け付け、面接指導やエントリーシートの添削、インターンシップ参加の指導、就職活動時における企業選定等、多岐にわたるキャリア支援を行っている。また、250 社を超える企業を招き、本学主催の企業研究セミナーを複数会場で開催している。

幼児教育支援センター

幼児教育支援センターは、保育者を目指す学生が、資質を十分に伸ばし、将来、保育士・幼稚園教諭として活躍するために、教員及び保育士養成プログラムの企画・運営・支援を行ってい

る。教員免許状・保育士資格取得の情報、教員・保育士等の採用試験の情報や試験対策の情報を収集・提供し、対象学部学科と連携しながら、総合的な支援を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

全ての学生が心身の健康を保持し、安全で快適な環境下においてあらゆる活動に専念できるよう、生活・健康相談、カウンセリング等のサポート体制を整備している。

カウンセリングルーム（学生相談室）

カウンセラー（臨床心理士）が常駐し、学生の様々な悩みに対するカウンセリングを受けることができる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにおいて公表

<https://www.tokoha-u.ac.jp/university/disclosure/public-info/>

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。